時代をつなぎ 50回

生田地区 さなぶり大運動会

いっち・にー、いっち・にー

「より明るくより健康によりなごやかに」をスローガンに開催された生田地区のさなぶり大運動会。昭和41年から始まった住民手作りの運動会は、平成22年から3年間休止したものの、平成25年に復活、今年で50回目を数えました。

運動会に先立ち、平成25年の運動会復活に尽力した当時の集落会長・鈴木作治さんと、これまで運動会を盛り上げようと開催に貢献してきた熊野神社宮司の高橋弥生さんに生田集落会から感謝状が贈呈されました。

上生田・中生田・下生田の3地区がそれぞれチームとなって行われた運動会では、拝借レースや二人三脚、玉入れなど子どもからお年寄りまで参加できる様々な種目が行われ「頑張れ！」などの声援が送られていました。

おばあちゃんも大活躍！

運動会終了後には、田植えを無事終えたことに感謝し、秋の豊作を祈る恒例の「さなぶり」が開催されました。3地区のほか今回は生田の若者も加わり、踊りなど趣向を凝らした出し物が披露されると会場は歓声に包まれました。

大会会長で集落会長でもある三浦陽一さんは「若者も積極的に参加してくれて盛り上がった。集落のつながりとなるこの運動会が年中行事としてこれからも続いていくと確信した」と話していました。

運動会終了後に行われた「さなぶり」。50回の節目ということもあり、大いに盛り上がりました。最後は、高橋弥生さんの伴奏により秋田県民歌を参加者全員で歌い締めくくりました。

中川地区 市民運動会

目が回る…
ぐるぐる…

児童たちもリレーに綱引きに大奮闘。

中川小学校と中川地区の合同で行われた中川地区市民運動会。50回の節目を迎えた今年は、記念式典が開催され、これまで中川地区コミュニティ連絡協議会の先頭に立って地域をけん引してきた歴代の会長6人に感謝状が贈呈されました。

式典で小玉義隆会長は「中川小学校が来年度に角館小学校と統合になるため、小学校と合同の運動会としては最後になる。複雑な気持ちだが、皆さんの協力をいただきながら今後もコミュニティを続けていかなければならないと強く思っている」と述べました。

式典後には、金足農業高校野球部元監督の嶋崎久美氏による講演会が行われ、約200人の来場者は野球にまつわる様々なエピソードを興味深く聞いていました。

その後行われた運動会では、児童たちが元気よく走る姿や、負けじとハッスルするお父さんやお母さんたちの姿も見られ、最後まで盛り上がりを見せていました。

小学生から大人まで参加した「ぐるぐるバットリレー」の1コマ。目が回ってまっすぐ走れません！

6月9日、初夏の日差しが降りそそぐ中、生田地区と中川地区で50回の節目となる運動会が開催されました。それぞれの会場では、子どもからお年寄りまで世代を超えて体を動かしたり、応援したりとグラウンドには歓声が響き渡りました。

取材の裏側など貴重なお話

塩野米松氏×ほぼ日トークイベント

6月1日、「ほぼ日刊イトイ新聞（ほぼ日）」のホームページで全文無料公開された「中国の職人」の著者・塩野米松さんとほぼ日の編集者・奥野武範さんによるトークイベントが新潮社記念文学館で行われました。

「本にならなかった本 中国の職人」は、塩野さんが6年の歳月をかけて中国の職人6人に仕事や生き方を丁寧に取材した「聞き書き」です。

この日参加した約60人は、全文無料公開に至った経緯や取材の様子などの話に聞き入っていました。

塩野さんは「出版社に原稿を持っていくと『売る自信がない』と断られた。紙の本が売れない時代、じゃあ定価0円で出版しようと思った」と話しました。

奥野さんは「ここまで長文のものを一度に公開することがなかったので読者が読んでくれるか心配だった。でも、たくさんの読者から反響があり、ホームページの可能性を感じた」と話しました。

新潮社記念文学館では8月25日まで『塩野米松聞き書き「中国の職人」展』が開催されています。「中国の職人」全6章のうち第4章を全長24㍍の紙に印刷されて全文を読むことができます。

塩野米松さん（右）と奥野武範さん（左）による取材や公開にまつわるトークが繰り広げられました。

長崎県大村市で仙北市物産展

仙北市の特産品が好評

5月31日から6月2日にわたり、姉妹都市の長崎県大村市で仙北市物産展が開催されました。

大村市とは、戊辰戦争の縁で旧角館町が昭和54年に姉妹都市提携を締結しています。この物産展は、毎年大村公園で行われる花菖蒲まつりにあわせて開催されるもので、今年で16回目。仙北市からは、門脇策子社中の倉泉由美さんによる飾山囃子も披露され、イベントは大盛況となりました。

仙北市の特産品を買い求める方々で賑わいました。

白熱の戦い

実戦空手道選手権大会

6月2日、2019東北ジュニア新人戦、第15回オープントーナメント武心会実戦空手道選手権大会兼第13回東北ウエイト制ジュニア実戦空手道選手権大会（実戦空手道武心会主催）が角館中学校体育館で開催されました。今大会には、東北5県24団体の総勢297人が出場。選手たちの手に汗握る白熱の真剣勝負に、会場には大きな声援が響き渡りました。

大会結果（敬称略）

【2019東北ジュニア新人戦】
▼小学1年男子 3位 小松楓（角館小）▼小学5～6年女子 準優勝 湯澤蘭（角館小）

【第15回オープントーナメント武心会実戦空手道選手権大会】
一般上級軽量級 優勝 佐々木竜生（角館高）

【第13回東北ウエイト制ジュニア実戦空手道選手権大会】
▼小学1年男子重量級 優勝 新田淳仁（角館小）▼小学2年男子軽量級 準優勝 湯澤蓮（角館小）▼小学3～4年女子重量級 3位 高橋凛（西明寺小）▼小学4年男子軽量級 ベスト8賞 高村歩斗（白岩小）▼小学4年男子重量級 優勝 佐々木雄（角館小）▼同準優勝 新田悠仁（角館小）▼中学1年男子重量級 準優勝 大岡正宗（生保内中）

一般上級軽量級の部で優勝した佐々木竜生選手（右）。

秋田県食生活改善推進協議会 会長表彰を受賞

長年の功労により会長表彰を受賞した松田さん。

6月5日、秋田市文化会館で開催された秋田県食生活改善推進協議会総会で同協議会会長より松田誠子さんが功労個人として表彰されました。

松田さんは、食生活改善推進員として長年にわたり食を通して地域住民の健康づくりや食生活改善活動に取り組み、会の運営にも尽力されたことが認められ今回の受賞となりました。

スマート農業を身近に体験

ラジコンボートとドローンによる除草剤散布デモンストレーションを実施

仙北市では、農業分野における様々な課題を解決する手法の一つとして、近未来技術を活用した「スマート農業」を推進しています。

5月30日、認定農業者 鈴木八寿男さんのほ場をお借りして、株式会社池田の提供によるラジコンボートとドローンを用いた除草剤散布デモンストレーションを行いました。

当日は風が強く吹いていたため、いずれの機器も薬剤の散布は行わず、ラジコンボートやドローンの航行の様子が披露されました。会場には地元農家の方々や関係者など、約30人が集まり、スマート農業を身近に体験しました。鈴木八寿男さんは「スマート農業の確立により、若い人たちも楽しんで農業ができるようなスタイルになればいい」と話しました。

今後もスマート農業に関連した取組を計画、実施していきますので、随時広報や仙北市ホームページなどでご案内します。

ドローンによる除草剤散布のデモンストレーション。

朗読ボランティア「やさいの花」

ふるさとに思いを寄せて

聞いていると作品に引き込まれていきます。

朗読を行った「やさいの花」の皆さん。

6月13日、新潮社記念文学館ボランティア「やさいの花」による第10回定期朗読公演「ゆずり葉 昨日ふるさとは…明日ふるさとは…」が仙北市総合情報センターで開催されました。

「やさいの花」は文学作品を朗読するボランティアで、今年で結成10周年。結成時から始めた朗読公演も回を重ね、第10回となりました。

節目を迎えた今回は、ふるさとをテーマに「譲り葉」（青山トーゴ）などふるさとの懐かしい風景を思い描くような作品など全7作品が朗読されました。約40人の来場者は、作品ごとに情景を思い浮かべながら聞き入っているようでした。

6月8日、ルポール麹町（東京都）を会場に「第33回東京田沢湖会総会」が開催されました。

当日は90人が出席し、今年度の予算や活動計画を決めました。総会後の懇親会では、出席者がお互いの近況や懐かしい思い出話に花を咲かせていました。

1年ぶりの再会に沸く

東京田沢湖会総会

生保内節が流れると出席者が踊り出し、会場は大いに盛り上がりました。

全日本小学生 ソフトテニス選手権大会 秋田県予選会

全県優勝し、全国大会への出場を決めた高橋優斗くん（左・角館小6年）と佐藤大駕くん（右・大曲小6年）ペア。3度目の全国大会では、入賞を目指します。

5月25日、全日本小学生ソフトテニス選手権大会秋田県予選会が、大館市高館公園コートで開催され、大曲ジュニアの高橋・佐藤ペアが全県優勝しました。2人は、7月25日から栃木県那須塩原市で開催される全国大会に出場します。

仙北市 地域おこし協力隊コラム

ドローンの可能性

播磨靖之

皆さんこんにちは。今月の地域おこし協力隊コラムを担当するのは、ドローンの播磨です。

今回は先日6月1日に仙北市で開催した「全国ドローンレース選手権秋田地区予選」についてお話したいと思います。

まず、ドローンレースを簡単に説明すると、ゴーグル型のディスプレイを装着し、ドローンに取りつけられたカメラの映像を頼りに、コントローラーでドローンを操縦し、コースを飛行します。イメージ的には空中で行われるカーレースF1のような感じです。

日本では、このドローンレースはまだまだ趣味の範囲で、飛ばして遊んでいるというイメージが非常に強いですが、世界的にはユニバーサルなeスポーツとして認知され、オリンピック正式競技に向けた取組も出てきています。

僕自身もレースに出場しますが、ドローンレースは、必要な資金や費やす時間が半端ないんです。だからこそ、少しでも選手にかかる負担を減らし、実力ある方は地方からでも表舞台に立てる環境を作るために、できる限りサポートをしたいと思っています。

全国ドローンレース選手権は、全国にいる僕と同じような思いを持つ皆さんと共に、国内9か所（秋田・宮城・茨城・神奈川・静岡・愛知・広島・長崎・熊本）で地区予選を開催したもので、同日、同時刻に各地区同じ規格のコースでレースを行い、リアルタイムで全国ランキングを確認できるようにしました。これは世界でも初めての取組で、成績上位者は7月に北海道で行われる大会へ招待されるというものです。残念ながら、秋田地区から成績上位者は現れませんでしたが、大会中の選手の真剣な眼差しや、観戦に来た方の楽しそうな笑顔を見て、開催して本当によかったと思いました。

ドローンは、撮影や点検、輸送や災害調査など、社会インフラの分野でも今や必須の技術であり、近い将来、ドローンが私たちの上空を飛び回り、生活になくてはならないものになると予想されています。しかしながら、まだまだ十分な安全を保障できるとはいえず、世界中で多くの企業や自治体、国レベルでの研究開発が日々行われています。

ドローンは、「最新テクノロジーの塊」といわれるほど、様々なセンサーや機能が詰まっています。これが重要なポイントです。ドローンは遊びながらにして飛行操作技術・電子工作・プログラミング・航空力学などが学べる『エデュテインメント（楽しみながら自然に知識をつけること）』要素が強いツールであり、産業界にも大きく貢献できると考えています。

皆さんもぜひ、遊びながら最先端技術について一緒に学んでいきましょう！

スマートフォンによるライブ配信に応じる播磨さん。